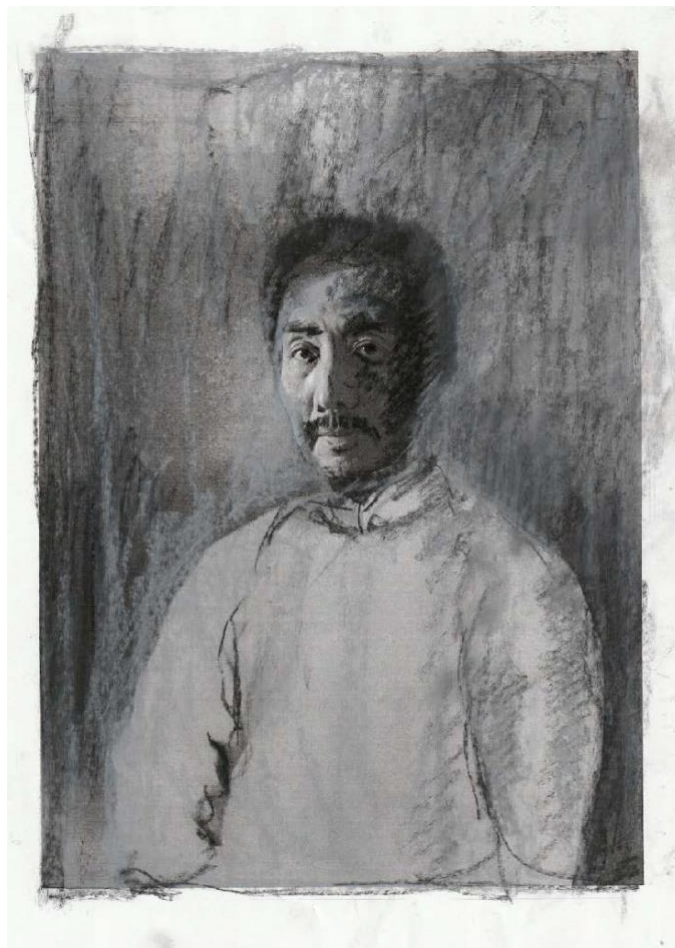


[プレスリリース]

2024/2/28

森村泰昌
楽しい五重人格

2024 年 4 月 19 日(金) – 6 月 1 日(土)



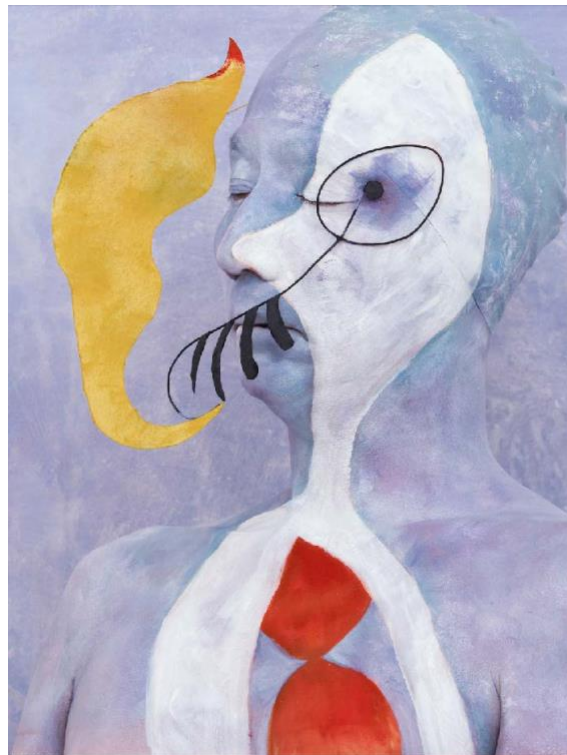
エンターテインメントをめざしているわけではない、
でも楽しい見せ物。

起承転結のある物語にはなびかない、
でもなにかが語られている。

物静かな不協和音が、内と外に向けて炸裂する。
だから、たったひとりの 5 人展。

森村泰昌

近年の森村泰昌は、原美術館「エゴオブスクラ東京 2020-さまよえる日本の私」(2020)、アーティゾン美術館「M 式「海の幸」—森村泰昌ワタシガタリの神話」(2021)、森村泰昌 x 桐竹勘十郎人間浄瑠璃「新・鏡影奇譚」(2022)、京都市京セラ美術館「森村泰昌：ワタシの迷宮劇場」(2022)などの展覧会やパフォーマンスを手掛けながら、北加賀屋の M@M では定期的に企画展を開催し、大阪大学中之島アートセンターにパブリックアートを設置するなど、多岐に渡り充実した活動が続けている。加えて、今年の 4 月に出版される新著『生き延びるために芸術は必要か』(光文社新書)といった文筆活動もある。



森村泰昌 《ほんきであそぶとせかいかわる(ミロ A)》2020, chromogenic print, image: 137x100cm

「わたし」をテーマに、およそ 40 年間にわたり制作し続ける森村であるが結局のところ「森村泰昌」とはなんだろうか。

作品の中では美術史の人物になり、映画女優になり、歴史的人物になり、そして現実の世界では写真家であり、映像作家であり、文筆家であり、舞台の演者でもある。あたかも多種多様な人格が「森村泰昌」という一つの器の中に同居しているかのようだ。森村はそのような「統一感が欠如していること、整理されず散乱していること、異なるキャラクターや価値観が混在していること、ヒエラルキーを生み出さないこと」をむしろ肯定し、「お定まりのアイデンティティに収斂されること」を回避したいと述べる。



森村泰昌《カフカのいる風景 2》2015/2024, gelatin silver print, image: 29.7x21.6cm, ed. 10

今展に出品される、森村の最新作、未発表作、近作は、相互に関係性を持たない五つのセクション（＝五重人格）を構成し、各種各様に自在な展開をみせてくれる。登場するのは、森村扮する「甲斐庄楠音」、「ナポレオン」、「ミロの絵画」、「カフカ」、そして「魯迅」。計 14 点の出品作が奏でる不協和音とともに、「森村泰昌」の多重人格性が、静かにそして楽しく炸裂する。

「わたし」を何かと同一化したとき、私たちの思考はそこで固定されてしまう。自己とは主観的な経験が繋ぎ合わさったものであり、絶え間なく変化し続けるものと捉えれば、あえて散乱された「わたし」の状態こそが創造の源泉となりえるのではないだろうか。森村泰昌「楽しい五重人格」をどうぞ期待下さい。

2024 年 2 月 シュウゴアーツ



森村泰昌 《甲斐庄幻想》2023/2024, archival inkjet print on japanese paper, 120x70cm, ed. 7

森村泰昌 楽しい五重人格

会期：2024 年 4 月 19 日（金）－6 月 1 日（土）

会場：シュウゴアーツ

開廊時間：火～土曜 11:00 - 18:00 （日月祝休廊）

森村泰昌 関連展覧会、活動など

－開館 5 周年記念「TAKE 5」

会期：2023 年 10 月 27 日（金）－2024 年 3 月 31 日（日）

会場：モリムラ@ミュージアム

[Web サイト](#)

－第 8 回 横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」

会期：2024 年 3 月 15 日（金）－6 月 9 日（日）

会場：横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO、
クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路

[Web サイト](#)

－レ・フランシスケーヌ、森美術館共同企画

「浮世：ジャポニスムから日本の現代アートまで」展

会期：2024 年 6 月 22 日（土）－9 月 22 日（日）

会場：レ・フランシスケーヌ（ノルマンディー）

[Web サイト](#)

－出版『生き延びるために芸術は必要か』

光文社新書より 4 月 17 日刊行予定

森村泰昌

1951 年大阪市生まれ、大阪市在住。1985 年にゴッホの自画像に扮するセルフポートレート写真を発表して以来、一貫して時代や人種、性別を超えた様々な「他者」に自らが成り代わる「自画像的作品」の発表を行う。自分ではない何かになる試みを続けながら、その根底には自分であることの意味を問い続ける。いまもなお時代精神と歴史精神の両側面に立脚し、他者及び他者の芸術成果や歴史的事件に対する独自の分析をくわえながら、自らの身体を用いて写真、映像、パフォーマンスの表現を駆使し実践としての森村芸術を展開し続ける森村芸術は多方面に影響を与え続けている。

主な個展に「森村泰昌：ワタシの迷宮劇場」京都市京セラ美術館 東山キューブ（京都、2022）、「M 式「海の幸」－森村泰昌 ワタシガタリの神話」アーティゾン美術館（東京、2021）、「森村泰昌：エゴ オブスクラ東京 2020—さまよえるニッポンの私」原美術館（東京、2020）、「YASUMASA MORIMURA: EGO OBSCURA」Japan Society（ニューヨーク、2018）、「森村泰昌「私」の年代記 1985~2018」シュウゴアーツ（東京、2018）、「Yasumasa Morimura. The history of the self-portrait」プーシキン美術館（モスクワ、2017）、「森村泰昌：自画像の美術史－「私」と「わたし」が 出会うとき」国立国際美術館（大阪、2016）、「Theatre of the Self」アンディ・ウォーホル美術館（ピッツバーグ、2014）、「LAS MENINAS RENACEN DE NOCHE 森村泰昌展 ベラスケス 頃：侍女 たちは夜に甦る」資生堂ギャラリー（東京、2013）、「森村泰昌 レンブラントの部屋、再び」原美術館（東京、2013）など。

『自画像のゆくえ』（光文社新書）、『ほんきであそぶとせかいはかわる』（LI XIL 出版）、『美術応答せ よ！』（筑摩書房）など多数。2018 年大阪に自身の美術館 M@M(モリムラ@ミュージアム)をオープン。

シュウゴアーツ 展覧会担当：石井美奈子 プレス担当：藤田（gallery@shugoarts.com）

106-0032 東京都港区六本木6 丁目5 番 24 号 complex665 2F / 03-6447-2234

email: info@shugoarts.com website: <https://shugoarts.com/>

Top image: 森村泰昌《野草の肖像（習作4）》2023, 紙にコラージュ画像のコピー、パステル、クレパスなど, image: 25x18cm